#### 様式1 客観的評価指標による事業採択の前提条件、事業の効果や必要性の確認の状況

事業名	一般国道483号 北近畿豊岡自動車道 春日和田山道路 -
事業主体	近畿地方整備局

#### 事業採択の前提条件を確認するための指標

	指 標		指標チェックの根拠	
前提条件	事業の効率性	便益が費用を上回っている	費用便益比(B/C)=5.2 (経済的純現在価値(B-C)=2,166億円、経済的内部収益率(EIRR)=19%) (事業全体:費用便益比(B/C)=1.4 (経済的純現在価値(B-C)=730億円、経済的内部収益率(EIRR)= 5%))	
	事業実施環境	ルート確定済		
		円滑な事業執行の環境が整っている	(地元の合意の状況、環境影響評価の時期 <b>平成2年3月</b> )	

#### 事業の効果や必要性を評価するための指標

i	政策目標	指 標 (対象となる指標のみ記載。効果が確認されるものは を に変更)	指標チェックの根拠	
1 . 活力	円滑なモビリティの確保	現道等の年間渋滞損失時間及び削減率	区間a(費用便益分析対象区間)について 渋滞損失時間(現況):0万人・時間/年 渋滞損失削減時間:0人・時間/年(0人・時間/年 0人・時間/年) 区間b(当該区間/平行区間)について:(該当区間名) 並行区間等(当該区間)の渋滞損失時間:65.7人・時間/年(野村~遠阪) 並行区間等(当該区間)の渋滞損失削減率:5割削減(野村~遠阪)	
		現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される		
		現道又は並行区間等における踏切交通遮断量が10,000台時/日以上の踏切道の除却もしくは交通改善が期待される		
		現道等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する	利便性向上が見込まれるバス路線: <b>全但バス</b>	
		新幹線駅もしくは特急停車駅へのアクセス向上が見込まれる		
		第一種空港、第二種空港、第三種空港もしくは共用飛行場へのアクセス向上が見込まれる	<b>但馬空港、豊岡市</b> 、改善見込み( <b>氷上郡(丹波市)~但馬空港</b> 、94分 71分 等)	
	物流効率化の支 援 	特定重要港湾もしくは国際コンテナ航路の発着港湾へのアクセス向上が見込まれる	<b>神戸港、神戸市</b> 、改善見込み( <b>氷上郡(丹波市)~神戸港</b> 、88分 81分 等)	
		農林水産業を主体とする地域において農林水産品の流通の利便性が向上	農林水産業を主体とする地域名 <b>豊岡市</b> 、主な出荷先等 <b>近畿圏内(大阪市、神戸市等)</b>	
		現道等における、総重量25tの車両もしくはISO規格背高海上コンテナ輸送車が通行できない区間を解消する		

1	I		
1 . 活力	都市の再生	都市再生プロジェクトを支援する事業である	
		広域道路整備基本計画に位置づけのある環状道路を形成する	
		市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携あり	
		中心市街地内で行う事業である	
		幹線都市計画道路網密度が1.5km/km2以下である市街地内での事業である	
		DID区域内の都市計画道路整備であり、市街地の都市計画道路網密度が向上する	
		対象区間が現在連絡道路がない住宅宅地開発(300戸以上又は16ha以上、大都市においては100戸以上又は5ha 以上)への連絡道路となる	
	国土・地域ネッ トワークの構築	高速自動車国道と並行する自専道(A'路線)としての位置づけ有り	
		地域高規格道路の位置づけあり	
		当該路線が隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する	対象となる日常活動圏中心都市: <b>丹液地方生活圏(篠山市)</b>
		現道等における交通不能区間を解消する	
		現道等における大型車のすれ違い困難区間を解消する	
		日常活動圏の中心都市へのアクセス向上が見込まれる	対象自治体名( <b>丹渡市</b> )、日常活動圏中心都市(丹波市)、改善見込み(110分 87分 等)
	個性ある地域の形成	鉄道や河川等により一体的発展が阻害されている地区を解消する	C
		拠点開発プロジェクト、地域連携プロジェクト、大規模イベントを支援する	関連する計画・構想等の名称等: <b>のじぎく兵庫国体</b>
		主要な観光地へのアクセス向上が期待される	アクセス向上が期待される観光地名: <b>城崎温泉・八チ高原・八チ北高原等</b> 、年間観光客入り込み数(但馬地域) <b>986万人</b>
		特別立法に基づく事業である	
		新規整備の公共公益施設へ直結する道路である	
2.暮らし	歩行者・自転車 のための生活空 間の形成	自転車交通量が500台/日以上、自動車交通量が1,000台/12h以上、歩行者交通量が500人/日以上の全てに該当する区間において、自転車利用空間を整備することにより、当該区間の歩行者・自転車の通行の快適・安全性の向上が期待できる	
		交通パリアフリー法における道路特定事業に位置付けがある、または、交通パリアフリー法に基づく重点整 備地区における特定経路を形成する区間が新たにパリアフリー化される	
	無電柱化による 美しい町並みの 形成	対象区間が電線類地中化 5 ヶ年計画に位置づけ有り	
		市街地又は歴史景観地区 (歴史的風土特別保存区域及び重要伝統的建造物保存地区)の幹線道路において新たに無電柱化を達成する	
	安全で安心でき るくらしの確保		対象となる三次医療施設名称 豊岡病院、アクセス向上が見込まれる自治体名( <b>丹波市</b> ) <b>60分カパー圏となる(60分以上 60分)</b>
•	-		

3 . 安全	安全な生活環境 の確保	現道等に死傷事故率が500件/億台キロ以上である区間が存する場合において、交通量の減少、歩道の設置又 は線形不良区間の解消等により、当該区間の安全性の向上が期待できる	
		当該区間の自動車交通量が1,000台/12h以上(当該区間が通学路である場合は500台/12h以上)かつ歩行者交通量100人/日以上(当該区間が通学路である場合は学童、園児が40人/日以上)の場合、又は歩行者交通量500人/日以上の場合において、歩道が無い又は狭小な区間に歩道が設置される	
	災害への備え	近隣市へのルートが1つしかなく、災害による1~2箇所の道路寸断で孤立化する集落を解消する	
		対象区間が、都道府県地域防災計画、緊急輸送道路ネットワーク計画又は地震対策緊急整備事業計画に位置 づけがある、又は地震防災緊急事業五ヶ年計画に位置づけのある路線(以下「緊急輸送道路」という)とし て位置づけあり	
		緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する	代替する緊急輸送道路路線名:国道 9 号(堀~新堂),国道 1 7 5 号(春日~堀)
		並行する高速ネットワークの代替路線として機能する(A'路線としての位置づけがある場合)	
		現道等の防災点検又は震災点検要対策箇所もしくは架替の必要のある老朽橋梁における通行規制等が解消される	
		現道等の事前通行規制区間、特殊通行規制区間又は冬期交通障害区間を解消する	
		避難路へ1km以内で到達できる地区が新たに増加する	
		幅員6m以上の道路がないため消火活動が出来ない地区が解消する	
4 . 環境	地球環境の保全	対象道路の整備により削減される自動車からの002排出量	(推計結果) 現道区間:4198t/年削減、排出削減率:38% 事業区間:1152t/日増加
	生活環境の改 善・保全	現道等における自動車からのNO2排出削減率	(推計結果) 現道区間:43t/年削減、排出削減率:39% 事業区間:160t/日増加
		現道等における自動車からのSPM排出削減率	(推計結果) 現道区間:2t/年削減、排出削減率:39% 事業区間:5t/日増加
		現道等で騒音レベルが夜間要請限度を超過している区間について、新たに要請限度を下回ることが期待される区間がある	
		その他、環境や景観上の効果が期待される	
5 . その他	他のプロジェクトとの関係	関連する大規模道路事業と一体的に整備する必要あり	
		他機関との連携プログラムに位置づけられている	
		道路の整備に関するプログラム又は都市計画道路整備プログラムに位置づけられている	
		その他、対象地域や事業に固有の事情等、以上の項目に属さない効果が見込まれる	

# 費用便益分析の結果

路線名	事業名	延長	事業種別	現拡・BPの別
国道483号	春日和田山道路	L=24.4km	高規格幹線道路	BP

計画交通量 (台/日)	車線数	事業主体
15,400 ~ 19,200	4	近畿地方整備局

#### 費用

	改築費	維持修繕費	合 計
基準年	準 年 平成16年		
単純合計	1,735億円	292億円	2,030億円
うち残事業分	513億円	292億円	805億円
基準年における 現在価値 (C)	1,853億円	101億円	1,950億円
うち残事業分	413億円	101億円	514億円

#### 便 益

	走行時間 短縮便益	走行費用 短縮便益	交通事故 減少便益	合 計		
基準年		平成16年				
供用年	平成26年					
単年便益 (初年便益)	182億円	10億円	6億円	198億円		
基準年における 現在価値 (B)	2,463億円	140億円	75億円	2,680億円		
うち残事業分	2,463億円	140億円	75億円	2,680億円		

## 結 果

費用便益比(事業全体)	1.4	
費用便益比(残事業)	5.2	

注)費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

# 感 度 分 析 (残事業を対象)

	<b>(</b> , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		
変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比(B / C)
交通量	19,200	± 1 0 %	4.7~5.7
事業費	513億円	± 1 0 %	4.8~5.7
事業期間	9年	± 2年	5.0~5.3
割引率	4 %	± 1 %	4.5~6.0

## 交通状況の変化

事業名:春日和田山道路 I (事業全体·残事業)

(推計時点 H42年)

				整備なし(A)	整備あり(B)
[バイパス等] ――		交通量	[台/日]	0	17, 900
		走行時間	[分]	0	18
24.	4km	走行時間費用	[億円/年]	0	92
	中国自動	交通量	[台/日]	45, 100	40, 000
	車道	走行時間	[分]	30	30
	: 38.8km	走行時間費用	[億円/年]	418	362
	播但連絡	交通量	[台/日]	18, 100	12, 400
	道路	走行時間	[分]	50	47
	: 46.7km	走行時間費用	[億円/年]	267	167
	国道427 号	交通量	[台/日]	8, 000	3, 100
②主な周 辺道路		走行時間	[分]	11	11
	: 5.6km	走行時間費用	[億円/年]	24	10
	主)青垣	交通量	[台/日]	15, 600	10, 800
	柏原線	走行時間	[分]	29	27
	: 13.0km	走行時間費用	[億円/年]	113	72
	国道175	交通量	[台/日]	15, 700	13, 400
	号	走行時間	[分]	13	12
	: 7. 4km	走行時間費用	[億円/年]	53	38
③その他i 48,54	直路合計: 4.5km	走行時間費用	[億円/年]	127, 232	127, 191

		走行時間費用 整備なし(A)	走行時間費用 整備あり(B)	走行時間短縮便益 (A - B)		
合計: 48,680.4km 走行時間短縮便益	[億円/年]	128, 106	127, 932	174		

※ 四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある。

※1: 交通量については、当該道路内の平均値または代表的な値を記載する。

※2: 走行時間については、配分計算結果を用いる場合と当該道路の代表的な速度から算出する場合がある。

※3: 走行時間費用については、費用便益分析マニュアルに従い車種別、区間別に算出したものの合計値である。

※4: 主な周辺道路については、当該事業により大きな変化が生じる道路について3~5路線程度以内で記載する。

#### 【 図面 (①、②に該当する道路を明示すること)】



# 費用便益分析の条件

事業名:春日和田山道路

( 2 <u>)</u>

( 2	)	項目	チェック欄
		費用便益分析マニュアル	7 T 7 7 HA
	算出マニュアル	(平成15年8月 国土交通省 道路局 都市·地域整備局)	
	угш (— <b>=</b> ) //	その他	
		分析対象期間	40年間
4	分析の基本的事項	社会的割引率	4 %
	3 m = 1 23 3 X	基準年次	平成16年
	交通流の	1時点のみ推計	(H42)
	推計時点	複数時点での推計	()
	10.41 - 165	整備の有無それぞれで交通流を推計	
	推計の状況	整備の有無のいずれかのみ推計	有 無
		道路交通センサスをベースとした自動車OD表	10
		(三段階推定法)	(H11センサス)
	推計に用いた	パーソントリップ調査をベースとした自動車OD表	
	OD表	(四段階推定法)	
		その他( )	
交		<u>無</u>	
通	開発交通量の 考慮	有	
流		考慮した開発交通量(トリップ数)	( )台リップ/日
推		有の場合のみ考慮した理由を記載	
計			
		Q - V式を用いた配分	
		転換率式を用いた配分	
		Q - V式と転換率式を併用した配分	
	和八六済星の	均衡配分(リンクパフォーマンス関数を用いた配分)	
	配分交通量の 推計手法	簡易手法	
		小規模事業である	
		簡易手法の 場合 山間部海岸部で併行道路が少ない	
		その他(	
		その他(	
		各回の配分終了時の速度を交通量でウェイト付け	
		して設定	
		採用理由を記載	
	速度設定の		
	を受政定の 考え方		
	2.2,3	最終配分の速度	
		採用理由を記載	
		その他(	

(3)

( )	)		
		項目	チェック欄
		考慮しない	( ) %
		考慮する	
	休日交通の		
	影響	対象路線のみ考慮	
	30 🗎	┃ 場合のみ ┃採用した休日係数      ┃	
		休日係数を考慮した理由および採用した休日係数の考え	え方を記載
	交通流推計の		
	時点以外の		
	便益の算定	その他	
<b>,</b> —			
便		費用便益分析マニュアルの値を使用	
益	車種別時間	独自に設定した値を使用	
の	価値原単位	算出根拠を添付すること	
算			
定		費田価益分析マニュアルの値を使田	
Ą	車種別走行		面的に考慮 対象路線のみ考慮 採用した休日係数 () % 休日係数を考慮した理由および採用した休日係数の考え方を記載  () % () が析マニュアルの値を使用 定した値を使用 にした値を使用 にした値を使用 にした値を使用 にある無 帯の有無を考慮 帯の有無を考慮 しない ) 合、算出根拠を添付すること)  計画による値を採用 パターンを採用 () 分析マニュアルの値を使用 の実績値より設定 または寒冷地域である
	单性別足1〕 経費原単位	独日に設定した順を使用     算出根拠を添付すること	
	社員尽干世	弁山収/だを/亦門すること	
	交通事故減少	中央分離帯の有無を考慮	
	便益算定	中央分離帯の有無を考慮しない	
		考慮しない	
	時間短縮·費用減	考慮する	
	少·事故減少以外	「ち/思りる	
	の便益	( Jie V-Wil ( Frei Kirc Chiril ) & CC)	
	その他		
		詳細事業計画による値を採用	
	事業費		
#	于木具		
費		その他( )	
用		費用便益分析マニュアルの値を使用	
の	維持管理費	事務所等の実績値より設定	
算		その他(	
定	雪寒費	積雪地域または寒冷地域である	
Ĺ	その他	The state of the s	
	7.0/11		
4 .	その他		
	上記のほか、B/	Cの算定にあたっての問題点があれば、記述。	
L			
<b></b>			
ļ			
ļ			
ļ			

## 費用の現在価値算定表

箇所名:春日和田山道路

維持修繕費の単純単価の算出(消費税相当額含む)

採用単価の根拠 高速道路

箇所名∶春日和田山道路	烙			単価(億円) 0.30	延長(km) 単純価値(億 24.40 7		
		割戻率	事業費		維持修繕	7.30 費(億円)	
年次	年度	1377	単純価値	現在価値	単純価値	現在価値	
- 24年目	H 2	1.7317	1.49	2.58		0.00	
- 23年目	H 3	1.6651	2.68	4.46		0.00	
- 22年目	H 4	1.6010	23.62	37.82		0.00	
- 21年目	H 5	1.5395	41.54			0.00	
- 20年目	H 6	1.4802	18.90	27.98		0.00	
19年目 - 18年目	H 7	1.4233 1.3686	192.70	274.27 94.27		0.00	
- 17年目	H 8	1.3159	68.88 68.94	94.27		0.00	
- 16年目	H 10	1.2653	80.53	101.89		0.00	
- 15年目	H 11	1.2167	106.47	129.54		0.00	
- 14年目	H 12	1.1699	145.34	170.03		0.00	
- 13年目	H 13	1.1249	95.32	107.23		0.00	
- 12年目	H 14	1.0816	113.68	122.96		0.00	
- 11年目	H 15	1.0400	144.64	150.43		0.00	
- 10年目	H 16	1.0000	117.57	117.57		0.00	
- 9年目 - 8年目	H 17	0.9615	105.62 30.29	101.55		0.00	
- 7年目	H 18	0.9246 0.8890	0.00	28.01 0.00		0.00	
- 6年目	H 20	0.8548	0.00	0.00		0.00	
- 5年目	H 21	0.8219	38.10	31.31		0.00	
- 4年目	H 22	0.7903	57.14	45.16		0.00	
- 3年目	H 23	0.7599	95.24	72.37		0.00	
- 2年目	H 24	0.7307	114.29	83.51		0.00	
- 1年目	H 25	0.7026	72.29	50.79		0.00	
供用開始年次	H 26	0.6756		0.00	7.30	4.93	
1年目	H 27	0.6496 0.6246		0.00	7.30 7.30	4.74	
2年目 3年目	H 28 H 29	0.6246		0.00	7.30	4.56 4.38	
4年目	H 30	0.5775		0.00	7.30	4.21	
5年目	H 31	0.5553		0.00	7.30	4.05	
6年目	H 32	0.5339		0.00	7.30	3.90	
7年目	H 33	0.5134		0.00	7.30	3.75	
8年目	H 34	0.4936		0.00	7.30	3.60	
9年目	H 35	0.4746		0.00	7.30	3.46	
10年目	H 36	0.4564		0.00	7.30	3.33	
11年目 12年目	H 37	0.4388 0.4220		0.00	7.30 7.30	3.20 3.08	
13年目	H 39			0.00			
14年目	H 40	0.3901		0.00	7.30	2.85	
15年目	H 41	0.3751		0.00	7.30	2.74	
16年目	H 42	0.3607		0.00	7.30	2.63	
17年目	H 43	0.3468		0.00	7.30		
18年目	H 44	0.3335		0.00	7.30	2.43	
19年目	H 45	0.3207		0.00	7.30	2.34	
20年目 21年目	H 46 H 47	0.3083 0.2965		0.00	7.30 7.30	2.25 2.16	
22年目	H 48	0.2851		0.00	7.30	2.10	
23年目	H 49	0.2741		0.00	7.30	2.00	
24年目	H 50	0.2636		0.00	7.30	1.92	
25年目	H 51	0.2534		0.00	7.30	1.85	
26年目	H 52	0.2437		0.00	7.30	1.78	
27年目	H 53	0.2343		0.00	7.30	1.71	
28年目	H 54	0.2253		0.00	7.30	1.64	
29年目 30年目	H 55 H 56	0.2166 0.2083		0.00	7.30 7.30	1.58 1.52	
31年目	H 57	0.2003		0.00	7.30	1.32	
32年目	H 58	0.1926		0.00	7.30	1.41	
33年目	H 59	0.1852		0.00	7.30	1.35	
34年目	H 60	0.1780		0.00	7.30	1.30	
35年目	H 61	0.1712		0.00	7.30	1.25	
36年目	H 62	0.1646		0.00	7.30	1.20	
37年目	H 63	0.1583		0.00	7.30	1.15	
38年目	H 64	0.1522	270 40	0.00	7.30	1.11	
39年目	H 65	0.1463	-379.16	-55.47	7.30	1.07	
合 計	1		1356.11	1852.93	291.82	101.46	
				1002.00		101.70	
単純事業費計			1735.27		291.82		

- 注1)事業費の投資パターンは、費用便益分析の計算条件として設定した標準的な投資パターンであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。
  - このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。 (投資パターンの変化による費用便益分析結果への影響等については、再評価及び事後評価として 評価を実施。)
- 注2)評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。
- 注3)維持修繕費は便益算出マニュアルの参考値を基本としている。

## 費用の現在価値算定表

筒所名·春日和田山道路

維持修繕費の単純単価の算出(消費税相当額含む)

採用単価の根拠 高速道路

箇所名:春日和田山道:	路			単価(億円) 0.30	延長(km) 24.40	単純価値(億円) 7.30
		割戻率	事業費		維持修繕	
年次	年度		単純価値	現在価値	単純価値	現在価値
- 24年目	H 2	1.7317		0.00		0.00
- 23年目	H 3	1.6651		0.00		0.00
- 22年目	H 4	1.6010		0.00		0.00
- 21年目	H 5	1.5395		0.00		0.00
- 20年目	H 6	1.4802		0.00		0.00
- 19年目	H 7	1.4233		0.00		0.00
- 18年目	H 8	1.3686		0.00		0.00
- 17年目	H 9	1.3159		0.00		0.00
- 16年目	H 10	1.2653		0.00		0.00
- 15年目	H 11	1.2167		0.00		0.00
14年目 - 13年目	H 12	1.1699 1.1249		0.00		0.00
- 12年目	H 14	1.0816		0.00		0.00
- 12年日	H 15	1.0400		0.00		0.00
- 10年目	H 16	1.0000		0.00		0.00
- 9年目	H 17	0.9615	105.62	101.55		0.00
- 8年目	H 18	0.9246	30.29	28.01		0.00
- 7年目	H 19	0.8890	0.00	0.00		0.00
- 6年目	H 20	0.8548	0.00	0.00		0.00
- 5年目	H 21	0.8219	38.10	31.31		0.00
- 4年目	H 22	0.7903	57.14	45.16		0.00
- 3年目	H 23	0.7599	95.24	72.37		0.00
- 2年目	H 24	0.7307	114.29	83.51		0.00
- 1年目	H 25	0.7026	72.29	50.79		0.00
供用開始年次	H 26	0.6756		0.00	7.30	4.93
1年目	H 27	0.6496		0.00	7.30	
2年目 3年目	H 28	0.6246		0.00	7.30	4.56
3年日 4年目	H 29	0.6006		0.00	7.30	4.38 4.21
	H 30	0.5775 0.5553		0.00 0.00	7.30 7.30	4.21
6年目	H 32	0.5339		0.00	7.30	3.90
7年目	H 33	0.5134		0.00	7.30	3.75
8年目	H 34	0.4936		0.00	7.30	3.60
9年目	H 35	0.4746		0.00	7.30	3.46
10年目	H 36	0.4564		0.00	7.30	3.33
11年目	H 37	0.4388		0.00	7.30	3.20
12年目	H 38	0.4220		0.00	7.30	3.08
13年目	H 39			0.00		
14年目	H 40	0.3901		0.00	7.30	2.85
15年目	H 41	0.3751		0.00	7.30	
16年目	H 42	0.3607		0.00	7.30	
17年目	H 43	0.3468		0.00	7.30	
18年目 19年目	H 44 H 45	0.3335 0.3207		0.00 0.00	7.30 7.30	2.43 2.34
20年目	H 46	0.3207		0.00	7.30	
21年目	H 47	0.3065		0.00	7.30	
22年目	H 48	0.2851		0.00	7.30	
23年目	H 49	0.2741		0.00	7.30	
24年目	H 50	0.2636		0.00	7.30	
25年目	H 51	0.2534		0.00	7.30	1.85
26年目	H 52	0.2437		0.00	7.30	
27年目	H 53	0.2343		0.00	7.30	1.71
28年目	H 54	0.2253		0.00	7.30	
29年目	H 55	0.2166		0.00	7.30	
30年目	H 56	0.2083		0.00	7.30	
31年目	H 57	0.2003		0.00	7.30	
32年目 33年目	H 58	0.1926		0.00	7.30 7.30	1.41 1.35
33年目 34年目	H 60	0.1852 0.1780		0.00	7.30	1.35
35年目	H 61	0.1760		0.00	7.30	1.30
36年目	H 62	0.1712		0.00	7.30	1.20
37年目	H 63	0.1583		0.00	7.30	
38年目	H 64	0.1522		0.00	7.30	1.11
39年目	H 65	0.1463		0.00	7.30	1.07
合 計			512.97	412.71	291.82	101.46
単純事業費計			512.97		291.82	
ナルリテ木只口			012.01		201.02	

- 注1)事業費の投資パターンは、費用便益分析の計算条件として設定した標準的な投資パターンであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。
  - このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。 (投資パターンの変化による費用便益分析結果への影響等については、再評価及び事後評価として 評価を実施。)
- 注2)評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。
- 注3)維持修繕費は便益算出マニュアルの参考値を基本としている。

#### 便益の現在価値算定表

箇所名:春日和田山道路

																				合 計
	年度	総走行台	計の年次別	引伸び率	割引率			走行時間短網	縮便益(億円)					走行経費減	少便益(億円)			事故減少便益(億	9)	(億円)
	(基準年)	(近	畿内陸プロ	(り)							現在価値						現在価値	現在	価値 便益額	
年次	H 1 6	乗用車類	貨物車類	全 車	(A)	乗用車	バス	小型貨物	普通貨物	計	× (A)	乗用車	バス	小型貨物	普通貨物	計	(A) ×	>	(A) ( ~	/ HJ//\
17 (7 (3 (7 (3 7 )H) 1 (7 ) C	H 26	1.00571	0.99794	1.00330	0.6756	88	14	17	63	182	123	4	C	2	5	10	7	6	4	198 134
	H 27	1.00568	0.99793	1.00329	0.6496	88	15	17	62	182	118	4	C	2	5	10	7	6	4	199 129
	H 28	1.00564	0.99793	1.00327	0.6246	89	15	17	62	183	114	4	C	2	5	10	6	6	4	199 124
	H 29	1.00561	0.99792	1.00326	0.6006	89	15	17	62	183	110	4	C	2	5	10	6	6	4	200 120
	H 30	1.00558	0.99792	1.00325	0.5775	90	15	17	62	184	106	4	C	) 2	5	10	6	6	4	200 116
	H 31	1.00555	0.99792	1.00324	0.5553	90	15	17	62	184	102	4	C	2	5	10	6	6	3	201 111
	H 32	1.00058	0.99561	0.99909	0.5339	91	15	17	62	184	98	4	C	2	5	10	6	6	3	201 107
	H 33	1.00058	0.99559	0.99909	0.5134	91	15	17	62	184	95	4	C	2	5	10	5	6	3	201 103
	H 34	1.00058	0.99557	0.99909	0.4936	91	15	17	61	184	91	4	C	2	5	10		6	3	200 99
v I H	H 35	1.00058	0.99555	0.99909	0.4746	91	15	17	61	184	87	4	C	2	5	10		6	3	200 95
	H 36	1.00058	0.99553	0.99909	0.4564	91	15	17		183	84	4	C	2	5	10	5	6	3	200 9
	H 37	1.00058	0.99551	0.99909	0.4388	91	15	17	60	183	80	4	C	1	5	10	5	6	3	199 88
	H 38	1.00058	0.99549	0.99908	0.4220	91	15	17	60	183	77	4	C	1	5	10	4	6	3	199 84
	H 39	1.00058	0.99547	0.99908	0.4057	91	15	16		182	74	4	C	1	5	10	4	6	2	199 8
	H 40	1.00058	0.99545	0.99908	0.3901	91	15	16	60	182	71	4		1	5	10	4	6	2	198 7
i o I	H 41	1.00058	0.99543	0.99908	0.3751 0.3607	91	15	16		182 174	68	4		1	5	10	4	6	2	198 74
	11 12	0.99657	0.99525	0.99619		79	14	16			63	3		1	6	10	4	4	2	189 68
	H 43	0.99656	0.99522	0.99617	0.3468 0.3335	79 78	14	16	66 65	174 173	60 58	3		1	6	10	3	4	2	188 65 187 62
	H 44 H 45	0.99655	0.99520	0.99616	0.3335	78 78	13	16 16		173	55	3		1	6	10	3	4	1	
	н 45 Н 46	0.99654		0.99614	0.3207	78	13 13	16	65	172	53	3		1	6	10	3	4	1	187 60 186 5
	H 47	0.99652	0.99515	0.99613	0.3083	78 78	13	16		172	53	3		1	6	10	3	4	1	185 55
	H 48	0.99651	0.99513		0.2965	78	13	16		171	49	3		1	6	10	3	4	1	184 50
	H 49			0.99610	0.2851	77	13	16		170	49	3		1	6	10	3	4	1	184 50
	H 50	0.99649	0.99508	0.99608	0.2741	77	13	15		169	46	3		1	6	10	3	4	1	183 48
	H 51	0.99646	0.99506	0.99607	0.2534	76	13	15	63	168	43	<u>3</u>		1	6	10		4	1	182 46
	H 52	0.99646	0.99503	0.99605	0.2334	76	13	15		167	43	2		'- '	6	10	2	4	1	181 4
	п 52 Н 53	0.99598	0.99781	0.99652	0.2437	76	13	15		167	39	2		1 .	6	10	2	4	1	181 42
	п 53 Н 54	0.99598	0.99781	0.99649	0.2343	76	13	15	63	166	37	<u> </u>		1 1	0	10		4	1	180 4
	п 54 Н 55	0.99596	0.99780	0.99648	0.2253	75	13	15	62	166	36	<u>ა</u>		1	6	ο	2	4	1	180 39
	H 56	0.99593	0.99760	0.99647	0.2100	75	13	15	62	165	34	2		1 1	6	٥	2	4	1	179 3
	H 57	0.99592	0.99779	0.99646	0.2003	75	13	15	62	165	33	2		1	6	9	2	4	1	178 36
	H 58	0.99590	0.99778	0.99644	0.1926	74	13	15	62	164	32	2	- 0	1	6	9	2	4	1	178 34
	H 59	0.99588	0.99778	0.99643	0.1852	74	13	15	62	164	30	2		1	6	9	2	4	1	178 33
	H 60	0.99586	0.99777	0.99642	0.1780	74	13	15	62	164	29	2	1	1	6	a	2	4	1	178 32
7:18	H 61	0.99585	0.99777	0.99641	0.1700	74	13	15	62	164	28	2	-	1	6	a	2	4	1	178 30
	H 62	0.99585	0.99777	0.99641	0.1712	74	13	15		164	27	2	0	1	6	a	2	4	1	178 29
	H 63	0.99585	0.99777	0.99641	0.1583	74	13	15	62	164	26	2	-	1	6	a	1	4	1	178 28
	H 64	0.99585	0.99777	0.99641	0.1503	74	13	15	62	164	25	2	-	1	6	a	1	4	1	178 27
	H 65	0.99585	0.99777	0.99641	0.1322	74	13	15	62	164	24	2		1	6	a		4	1	178 26
	55	2.00000	2.00	2.000.1	0.1100	3.266	551	639	2.496	6.953	2.463	122	,	'	Ŭ	395	140	201	75	7.549 2.678